

コース名	ヒューマンエラー・ボカミス対策講座 不良・手直し、事故を未然に防ぐ仕組みづくり				
研修のねらい	ヒューマンエラーやボカミスは、製品・サービスの品質低下や手戻りを発生させ、生産性低下を招くだけではなく、時には重大な事故に繋がることもあります。安全で高効率な職場環境を整えるためには、ヒューマンエラーを抑制する仕組みづくりが必要不可欠です。 本研修では、ヒューマンエラーやボカミスが発生する要因を理解し、その対策と生産性向上を両立する方法を学びます。また、実際に自社の課題を抽出し、職場を改善するためのアクションプランを検討します。				
研修の特長	・組織全体でヒューマンエラー対策に取り組む方法を学びます。 ・ボカミスを防ぎながら効率を上げる作業の改善方法を学びます。 ・自社のヒューマンエラー・ボカミス対策のアクションプランを検討します。 ◆本コースでの学習と併せて、下記コースをご活用ください。 ・「No.47 利益に直結！原価管理とコストダウン」 2026年11月16日(月曜)～2026年11月18日(水曜) 〈3日間〉 ・「No.27 チームで成果をあげるマネジメント術」 2027年1月13日(水曜)～2027年1月15日(金曜) 〈3日間〉 ・「No.28 本質を見極める！問題解決の進め方」 2027年2月3日(水曜)～2027年2月5日(金曜) 〈3日間〉				
研修期間	2027年1月26日（火曜）～ 1月28日（木曜） 〈3日間〉				
対象者	管理者、新任管理者（製造業） ・ヒューマンエラーの発生にお悩みの方 ・ヒューマンエラー対策を検討している方	定員	20 名	受講料	32,000 円

日付	時間	科目	内容	講師
1/26 (火)	9時20分～9時40分	オリエンテーション		中小企業大学校担当職員
	9時40分～12時20分	ヒューマンエラーが会社に及ぼす大きな影響	ヒューマンエラーの発生要因を理解した上で、ヒューマンエラーが大きな災害につながる事を理解し、会社に及ぼす影響を確認します。 ・ヒューマンエラーとは ・ヒューマンエラーを引き起こす 4 つの要因（人的要因、作業的要因、設備・システムの不備、管理面での不備） ・ヒューマンエラーが会社に及ぼす影響	坂田 卓也 合同会社サカタ経営 代表社員
	13時20分～17時40分	組織で取り組むヒューマンエラー対策	ヒューマンエラーの人的要因を掘り下げ、作業者のスキルや人間の特性に注視して、ヒューマンエラーを発生させないようにしていく組織風土の構築を考えます。 ・ヒューマンエラーが起こる人的要因 ・人的要因によるエラーをなくしていくための、組織での行動原則 ・【演習】ヒューマンエラーを防止する組織対策を考える	
1/27 (水)	9時20分～14時20分 (昼休 12時20分～13時20分)	ヒューマンエラー発生の構造解析と安全対策	作業現場でヒューマンエラーにより製品不良や損失を生じること（ボカミス）について、発生構造の解析手法を理解し、事故やヒューマンエラーを防止する安全対策を考えます。 ・事故やヒューマンエラーの構造を理解する：FAT解析 ・事故やヒューマンエラーを防ぐ安全技術：フェイルセーフ、フールプルーフ等 ・【演習】自社事例のFAT解析と安全技術適用の検討	
	14時20分～17時20分	生産効率アップとヒューマンエラー防止の両立	ムリ、ムダ、ムラを省く視点での、作業動作や手順の改善及び作業環境の整理、整頓、清掃等の実施により、作業効率のアップとボカミス防止を両立することを検討します。 ・ムダ、ムリ、ムラを省く人間工学的な対策、動作経済の原則 ・作業手順書、作業の標準化 ・5S（3S）と目で見える管理 ・【演習】自社のムリ、ムダ、ムラを省く対策の検討	
1/28 (木)	9時20分～12時20分	ヒューマンエラーを防止する職場組織の活動	事故・ヒューマンエラーを防ぐために職場で行う、安全衛生パトロール等の管理的な組織活動について確認します。 ・安全衛生パトロール ・その他の管理的な職場での自主活動	
	13時20分～17時20分	自社のヒューマンエラー＆ボカミス対策の検討【演習】	研修での学びを踏まえて、自社のヒューマンエラー対策を検討します。 ・職場の問題点の洗い出し ・自社での課題の抽出 ・ヒューマンエラー＆ボカミス対策のアクションプラン作成	
	17時20分～17時30分	修了証書の授与		中小企業大学校担当職員

※カリキュラムは都合により変更する場合がありますので予めご了承ください。

※研修初日終了後から交流会を開催する予定です。

講師氏名	略歴
坂田 卓也 （さかた たくや） 合同会社サカタ経営 代表社員	大日本印刷株式会社の生産総合研究所やエリーパワー株式会社の生産技術部を経て、経営コンサルタントとして独立し、現在の合同会社サカタ経営を設立。経営工学（IE）を活用した生産性の改善、品質管理（QC）や品質改善、新工場計画、生産ラインの自動化などの支援を行っている。支援実績は印刷関連、金属加工、食品加工、繊維と多岐にわたる業界の実績がある。中小企業診断士、技術士（機械部門）、エネルギー管理士（熱部門）、第3種電気主任技術者等を保有。